『海外留学体験記』（栄養学科３年生：川﨑千裕）

アデレイド便り（３）

「日本語ボランティアを通して学んだこと」（２０１９年３月）

私は、２０１８年８月末から２０１９年２月までの間、約６か月間をオーストラリアのアデレイドという街で過ごしました。その中で、私が体験した現地高校での日本語ボランティアについてご紹介します。

私がお邪魔したのは、ノーウッドモリアルタ高校という岡山県立大学とも関わりのある高校です。この高校は、街からバスで１５分ほど行ったところにあり、たくさんの人種の生徒たちが集まる、にぎやかで活気あふれる高校でした。アデレイドは、バスや電車、トラムなどが中心地から郊外をつないでおり、交通の便の良い街なので初めて行く場所でも迷うことなく到着することができました。

ボランティア初日、実は私はとても緊張していました。どんな風に接したらいいのだろうとか、自分の英語をわかってもらえるだろうかという不安を抱え学校に行ったのですが、私を担当してくださった日本人の先生がとても優しく、自分がどんな風に生徒のサポートをしたらいいのかなど丁寧に教えてくださいました。そのおかげで、生徒たちともスムーズに接することができました。

私が担当したのは、会話の練習でした。生徒と一対一で、あらかじめ決められていた質問を私がするという流れです。私が一番驚いたのは、みんな日本語が上手だということです。私が紙には書いていない質問をしても適切に答えられていたし、発音も非常に上手でした。また、突然来た私を受け入れてくれ、みんな笑顔で接してくれたのが嬉しかったです。

私がノーウッドモリアルタ高校にお邪魔できたのは、私の授業や高校の休みなどが被った関係で数回ほどでしたが、この時間は私にとって活力になる本当に良い経験だったと思っています。英語がうまく喋れずに落ち込んでいた時、ここでの授業を通して生徒を見ていると、少しでもうまく喋ろうとしていて、英語を勉強している自分と似ているなと思いました。そういった姿勢をみていると、自分も頑張ろうと思えたし、担当してくださった先生にも本当に心温まる励ましの言葉とアドバイスをいただきました。

また、生徒たちの雰囲気をみていいなと思ったことが、それぞれが違うバックグラウンドや文化を持っている中で、共通の話題を持ち、笑いあっているということです。私は、今まで授業や生活の中で外国人の方と接することが少なかったせいか、いざ接するとなると文化や考え方の違いで困ったり迷ったりすることがありました。オーストラリアは本当に多くの文化が入り混じった国だと強く感じます。そういった環境の中で生活する生徒たちは、私たちがよく耳にする、異文化理解というのを日常生活の中で自然と身につけているのだなと思いました。それと同時に私ももっと柔軟な思考をもってほかの国のことを知ろうと改めて思いました。

このボランティアを通し、自分の行動が間違いじゃなかった、来てよかったと思わせてくれるような良い経験ができたと思っています。